

2 女性の自殺者の増加

2 女性の自殺者の増加

- 近年、低下傾向にあった女性の自殺者が1年間に100人を超えて増加し、前年比増加数が2007年以降最多となったことや、男女別構成比(36%)が2007年以降で最大となっていることから、2020年は女性の自殺者数が大きく増加したといえる(図表20-01-1,図表20-01-2)。
- そこで、「1 2020(令和2)年の自殺の概況の見える化 (3)女性の概況」をさらに掘り下げ、職業別や、自殺の原因・動機等について詳しい分析を行った。

図表20-01

女性の自殺者数(2007年~2020年)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

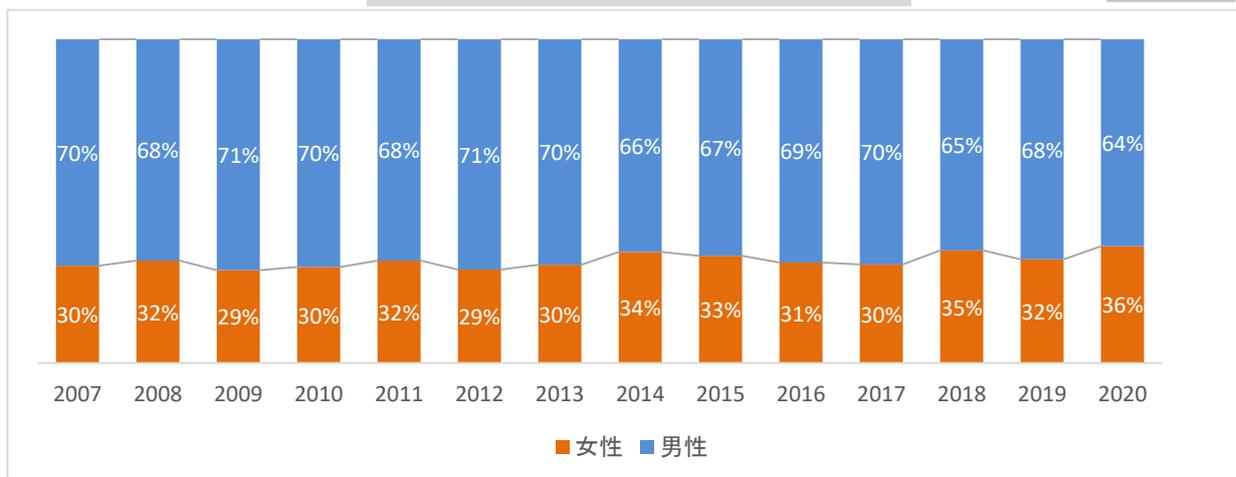
女性の自殺者数の年推移(人)

図表20-01-1



男女別構成比(%)

図表20-01-2

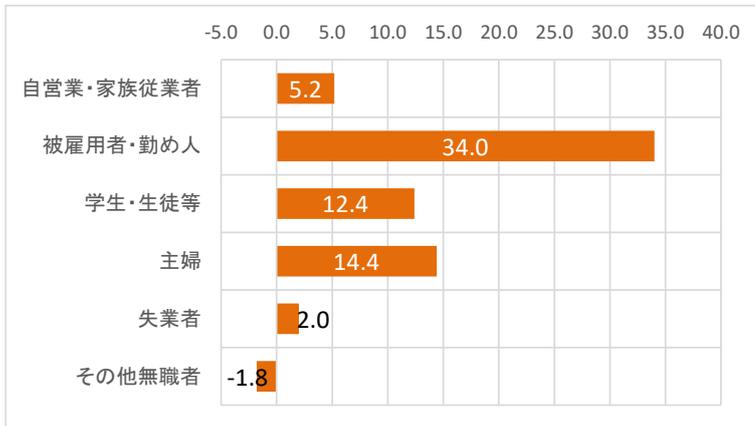


図表20-02

職業別女性自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



	過去5年平均	2020年	増減
自営業・家族従業者	7.8	13	5.2
被雇用者・勤め人	65.0	99	34.0
学生・生徒等	15.6	28	12.4
主婦	97.6	112	14.4
失業者	4.0	6	2.0
その他無職者	197.8	196	-1.8

注)職業不詳は除外している。

「その他無職者」は、無職のうち学生・生徒等、主婦、失業者を除くもの。

- 2020年の女性の職業別の自殺者数を過去5年平均との増減数で比較すると、「その他無職者」を除いて、すべて増加している。
- 特に、「被雇用者・勤め人」が最も多く、34.0人の増加となっている。

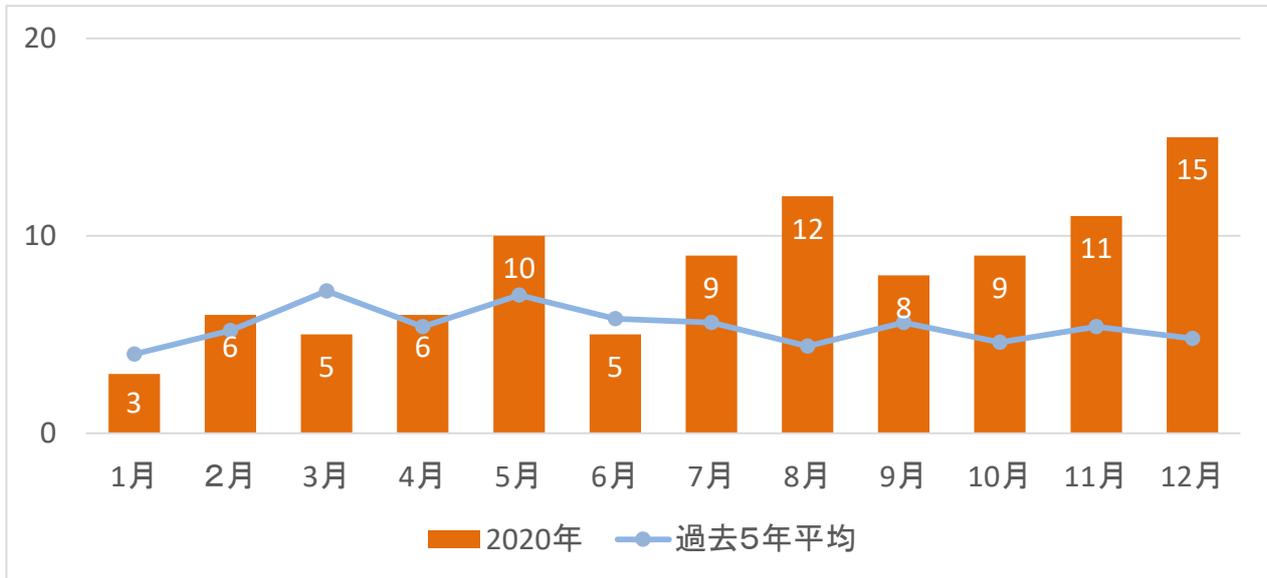
2 女性の自殺者の増加

図表20-03

女性自殺者数(被雇用者・勤め人)の月別比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
過去5年平均	4	5.2	7.2	5.4	7	5.8	5.6	4.4	5.6	4.6	5.4	4.8	65
2020年	3	6	5	6	10	5	9	12	8	9	11	15	99
増減数	-1	0.8	-2.2	0.6	3	-0.8	3.4	7.6	2.4	4.4	5.6	10.2	34
増減率	-25%	15%	-31%	11%	43%	-14%	61%	173%	43%	96%	104%	213%	52%

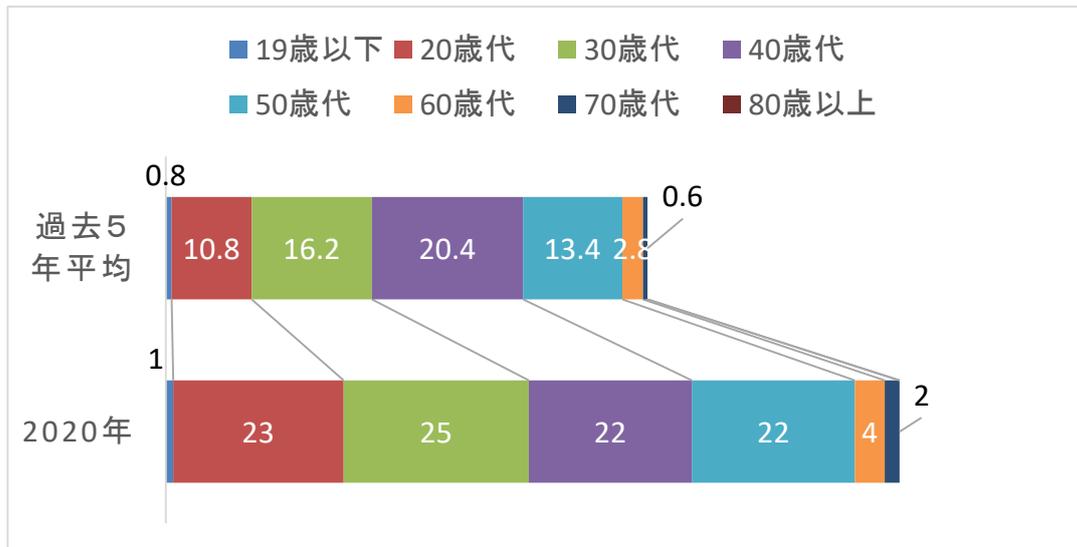
- 職業別女性自殺者数のうち、過去5年平均と比較して最も増加数が多い「被雇用者・勤め人」について、2020年の月別の自殺者数の動向をみると、「12月」が最も多く、「1月」が最も少なくなっている。
- また、「1月」、「3月」、「6月」を除く、すべての月で過去5年平均の自殺者数を上回り、最も多く上回ったのは「12月」であった。

図表20-04

女性自殺者数(被雇用者・勤め人)の年齢階級別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	合計
過去5年平均	0.8	10.8	16.2	20.4	13.4	2.8	0.6	0	65
2020年	1	23	25	22	22	4	2	0	99
増減数	0.2	12.2	8.8	1.6	8.6	1.2	1.4	0	34
増減率	25%	113%	54%	8%	64%	43%	233%	-	52%

注)年齢不詳は除外している。

- 2020年の女性自殺者数(被雇用者・勤め人)を年齢階級別にみると、「30歳代」が25人と最も多く、次いで、「20歳代」が23人、「40歳代」・「50歳代」が22人の順となっている。
- また、過去5年平均と比較すると、増加数では、「20歳代」が最も増加し、次いで、「30歳代」、「50歳代」となっている。

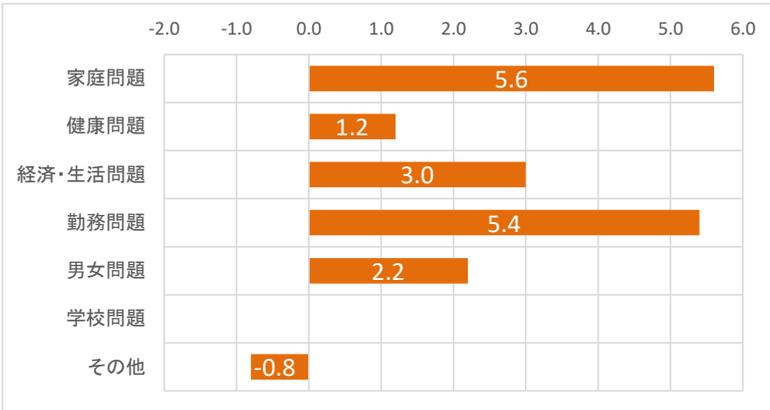
2 女性の自殺者の増加

図表20-05

女性自殺者数(被雇用者・勤め人)の原因・動機別の増減(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



	過去5年平均	2020年	増減
家庭問題	14.4	20	5.6
健康問題	26.8	28	1.2
経済・生活問題	4.0	7	3.0
勤務問題	10.6	16	5.4
男女問題	5.8	8	2.2
学校問題	0.0	0	0.0
その他	5.8	5	-0.8
不詳	22.0	40	18.0

注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

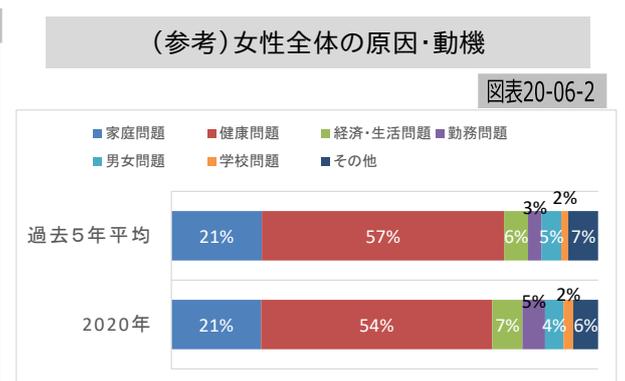
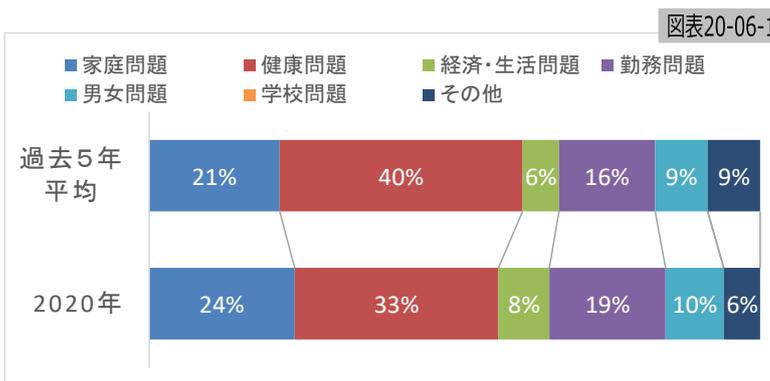
- 2020年における女性の「被雇用者・勤め人」の原因・動機別の状況について、過去5年平均と比較すると、「家庭問題」が5.6人と最も増加し、次いで、「勤務問題」が5.4人増加した。

図表20-06

女性自殺者数(被雇用者・勤め人)の原因・動機別構成比(2020年と過去5年平均との比較)

単位:%

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の女性自殺者数(被雇用者・勤め人)の原因・動機別の構成比では、「健康問題」が33%と最も多く、次いで、「家庭問題」が24%、「勤務問題」が19%の順となっている。これを女性全体の構成割合と比較すると、「被雇用者・勤め人」は、「健康問題」の割合が低く、特に「勤務問題」の比率が高くなっている(図表20-06-1,図表20-06-2)。
- また、過去5年平均と比較すると、「家庭問題」「勤務問題」がそれぞれ3ポイントと、最も上昇した(図表20-06-1)。

図表20-07

原因・動機(小分類)別女性自殺者数(被雇用者・勤め人)の比較(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

区分:被雇用者・勤め人 女性				GA06U3022	
2020年の構成比の上位を表示		2020	2019	過去5年	大分類
順位	原因動機小分類	n=84	n=66	n=337	
1	病気の悩み・影響(うつ病)	23.8%	21.2%	23.7%	健康
2	夫婦関係の不和	7.1%	1.5%	5.0%	家庭
2	職場の人間関係	7.1%	4.5%	4.7%	勤務
4	親子関係の不和	3.6%	3.0%	2.4%	家庭
4	家族の死亡	3.6%	1.5%	3.0%	家庭
4	子育ての悩み	3.6%	6.1%	2.1%	家庭
4	その他の家庭問題	3.6%	0.0%	3.3%	家庭
4	病気の悩み・影響(統合失調症)	3.6%	0.0%	3.3%	健康
4	その他の健康問題	3.6%	1.5%	0.6%	健康
4	職場環境の変化	3.6%	3.0%	3.0%	勤務
4	仕事疲れ	3.6%	7.6%	4.7%	勤務
4	その他の勤務問題	3.6%	4.5%	2.4%	勤務
4	不倫の悩み	3.6%	3.0%	1.8%	男女

注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 女性の「被雇用者・勤め人」の自殺の原因・動機(小分類)を過去5年平均と比較した。
- 2020年は「病気の悩み・影響(うつ病)」が最も多く、次いで、「夫婦関係の不和」・「職場の人間関係」の順であり、「病気の悩み・影響(うつ病)」は過去5年平均とほぼ同様であるが、「夫婦関係の不和」・「職場の人間関係」は、過去5年平均の比率を上回った。

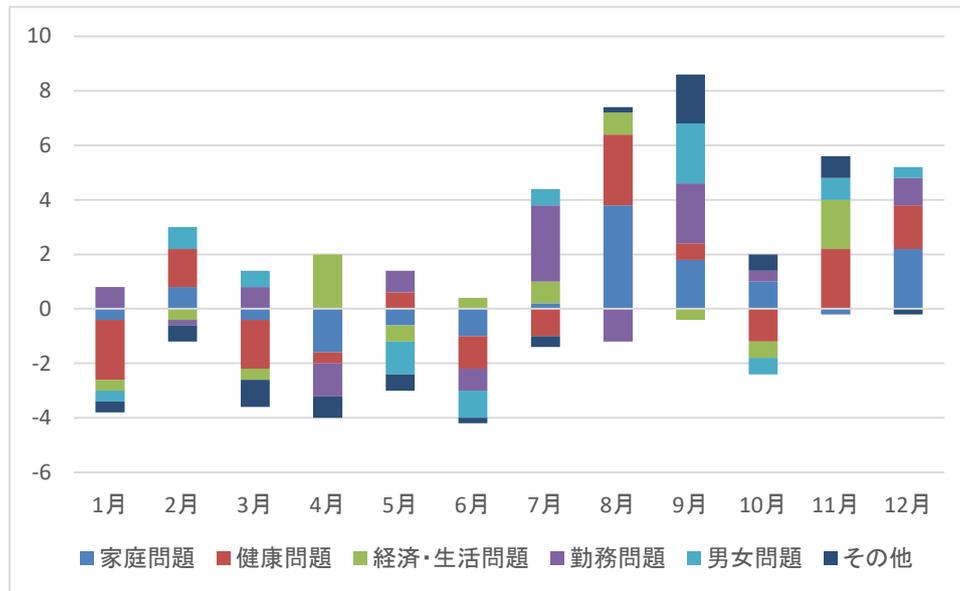
2 女性の自殺者の増加

図表20-08

女性自殺者数(被雇用者・勤め人)の月別原因・動機別増減比較
(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



原因・動機	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
家庭問題	-0.4	0.8	-0.4	-1.6	-0.6	-1.0	0.2	3.8	1.8	1.0	-0.2	2.2	5.6
健康問題	-2.2	1.4	-1.8	-0.4	0.6	-1.2	-1.0	2.6	0.6	-1.2	2.2	1.6	1.2
経済・生活問題	-0.4	-0.4	-0.4	2.0	-0.6	0.4	0.8	0.8	-0.4	-0.6	1.8	0.0	3.0
勤務問題	0.8	-0.2	0.8	-1.2	0.8	-0.8	2.8	-1.2	2.2	0.4	0.0	1.0	5.4
男女問題	-0.4	0.8	0.6	0.0	-1.2	-1.0	0.6	0.0	2.2	-0.6	0.8	0.4	2.2
学校問題	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	-0.4	-0.6	-1.0	-0.8	-0.6	-0.2	-0.4	0.2	1.8	0.6	0.8	-0.2	-0.8

注)自殺月で集計している。自殺月不詳、原因・動機不詳は除外している。

原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年における女性の「被雇用者・勤め人」の自殺者数を、月別、原因・動機別で過去5年平均と比較すると、女性の自殺者数が大きく増加に転じた「7月」は「勤務問題」の増加が最も多い。
- 年間の合計でみると過去5年平均と比べ増加が多かった上位3位は、①「家庭問題」②「勤務問題」③「経済・生活問題」であった。

図表20-09

女性自殺者数(被雇用者・勤め人)の内訳増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

増加数の多い職種(女性)

図表20-09-1

	職種(職業中分類)	過去5年平均	2020年	増加数	増減率
1	専門・技術職	11.2	22	10.8	96%
2	販売従事者	5.2	13	7.8	150%
3	その他の被雇用者・勤め人	15.0	22	7.0	47%
4	事務職	13.8	20	6.2	45%
5	サービス業従事者	14.2	17	2.8	20%

参考(男性)

図表20-09-2

	職種(職業中分類)	過去5年平均	2020年	増加数	増減率
1	専門・技術職	41.2	51	9.8	24%
2	販売従事者	19.0	27	8.0	42%
3	労務作業	39.6	47	7.4	19%
4	通信運輸従事	16.4	19	2.6	16%
5	事務職	21.8	23	1.2	6%

増加率の高い職種(女性)

図表20-09-3

	職種(職業中分類)	過去5年平均	2020年	増加数	増減率
1	販売従事者	5.2	13	7.8	150%
2	専門・技術職	11.2	22	10.8	96%
3	技能工	1.2	2	0.8	67%
4	その他の被雇用者・勤め人	15.0	22	7.0	47%
5	事務職	13.8	20	6.2	45%

参考(男性)

図表20-09-4

	職種(職業中分類)	過去5年平均	2020年	増加数	増減率
1	販売従事者	19.0	27	8.0	42%
2	専門・技術職	41.2	51	9.8	24%
3	労務作業	39.6	47	7.4	19%
4	通信運輸従事	16.4	19	2.6	16%
5	事務職	21.8	23	1.2	6%

注) 職種は警察庁の自殺統計の区分を使用している。

「専門・技術職」には、教員、医療・保健従事者、芸能人・プロスポーツ選手、弁護士、その他の専門・技術職を含む。

「その他の被雇用者・勤め人」は、専門・技術職、管理的職業、事務職、販売従事者、サービス業従事者、技能工、保安従事者、通信運輸従事者、労務作業以外職種。

- 2020年の女性自殺者(被雇用者・勤め人)のうち、さらに詳しい職種については、過去5年平均と比較すると、増加数では、「専門・技術職」が最も多く、10.8人の増、次いで「販売従事者」、「その他の被雇用者・勤め人」、「事務職」の順となった(図表20-09-1)。
- ちなみに、男性について、過去5年平均と比較すると、「被雇用者・勤め人」のうち、増加数の多いものから、「専門・技術職」、「販売従事者」、「労務作業」となったが、最も増加が多い「専門・技術職」でも増加数が9.8人で、女性より少ない状況であった。自殺者数全体の男女比が男性7割、女性3割であることを鑑みると、「専門・技術職」や「販売従事者」等、同一職種でも女性の方が増加が大きいといえる(図表20-09-1,図表20-09-2)。

2 女性の自殺者の増加

図表20-10

女性自殺者数(被雇用者・勤め人の内訳)の年齢階級別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

自殺者数(女性)

図表20-10-1

	若年層		中高年層		高齢者層		合計	
	40歳未満		40～64歳		65歳以上			
	過去5年平均	2020年	過去5年平均	2020年	過去5年平均	2020年	過去5年平均	2020年
専門・技術職	5.0	13	6.0	8	0.2	1	11.2	22
管理的職業	0.2	0	1.2	0	0.4	1	1.8	1
事務職	6.2	9	7.4	11	0.2	0	13.8	20
販売従事者	2.2	6	3.0	7	0.0	0	5.2	13
サービス業従事者	7.0	11	6.4	5	0.8	1	14.2	17
技能工	0.8	1	0.4	1	0.0	0	1.2	2
通信運輸従事	0.2	0	0.2	0	0.0	0	0.4	0
労務作業	0.6	0	1.4	2	0.2	0	2.2	2
その他の被雇用者・勤め人	5.6	9	9.2	12	0.2	1	15.0	22

増減数(女性)

図表20-10-2

	若年層	中高年層	高齢者層	合計
	40歳未満	40～64歳	65歳以上	
専門・技術職	8.0	2.0	0.8	10.8
管理的職業	-0.2	-1.2	0.6	-0.8
事務職	2.8	3.6	-0.2	6.2
販売従事者	3.8	4.0	0.0	7.8
サービス業従事者	4.0	-1.4	0.2	2.8
技能工	0.2	0.6	0.0	0.8
通信運輸従事	-0.2	-0.2	0.0	-0.4
労務作業	-0.6	0.6	-0.2	-0.2
その他の被雇用者・勤め人	3.4	2.8	0.8	7.0

参考 (男性)

図表20-10-3

	若年層	中高年層	高齢者層	合計
	40歳未満	40～64歳	65歳以上	
専門・技術職	5.2	4.8	-0.2	9.8
管理的職業	0.6	-3.2	0.2	-2.4
事務職	2.6	-1.8	0.4	1.2
販売従事者	2.6	5.6	-0.2	8.0
サービス業従事者	-1.0	3.4	-1.4	1.0
技能工	0.4	-6.8	1.8	-4.6
保安従事者	-3.0	-0.6	0.6	-3.0
通信運輸従事	0.8	2.8	-1.0	2.6
労務作業	3.2	5.8	-1.6	7.4
その他の被雇用者・勤め人	-1.0	-4.6	1.0	-4.6

注) 年齢不詳は除外している。

職種は警察庁の自殺統計の区分を使用している。

「専門・技術職」には、教員、医療・保健従事者、芸能人・プロスポーツ選手、弁護士、その他の専門・技術職を含む。

「その他の被雇用者・勤め人」は、専門・技術職、管理的職業、事務職、販売従事者、サービス業従事者、技能工、保安従事者、通信運輸従事者、労務作業以外職種。

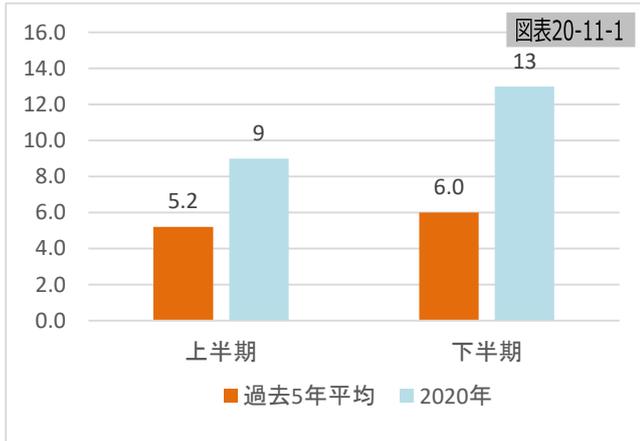
- 2020年における女性自殺者数(被雇用者・勤め人)の内訳の職種別について、過去5年平均と年齢階級別に比較すると、「若年層」では、「専門・技術職」が最も増加し、次いで、「サービス業従事者」、「販売従事者」の順に多く増加した。また、「中高年層」では、「販売従事者」、「事務職」、「その他の被雇用者・勤め人」の順に増加が多かった。「高齢者層」では、「専門・技術職」・「その他の被雇用者・勤め人」が最も増加した。また、全年代合計で最も増加した「専門・技術職」については、「若年層」での増加が多くを占めた(図表20-10-1,図表20-10-2)。
- ちなみに、男性について、過去5年平均と比較すると、「若年層」では「専門・技術職」が、「中高年層」では「労務作業」が、「高齢者層」では、「技能工」が最も増加した。また、全年代合計で最も増加した「専門・技術職」については、「若年層」と「中高年層」の増加が多くを占めた(図表20-10-3)。

図表20-11

専門・技術職の期別自殺者数比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



専門・技術職	女性		
	上半期	下半期	年間
過去5年平均	5.2	6.0	11.2
2020年	9	13	22
増減	3.8	7.0	10.8

専門・技術職	参考(男性)		
	上半期	下半期	年間
過去5年平均	20.0	21.0	41.0
2020年	15	35	50
増減	-5.0	14.0	9.0

注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

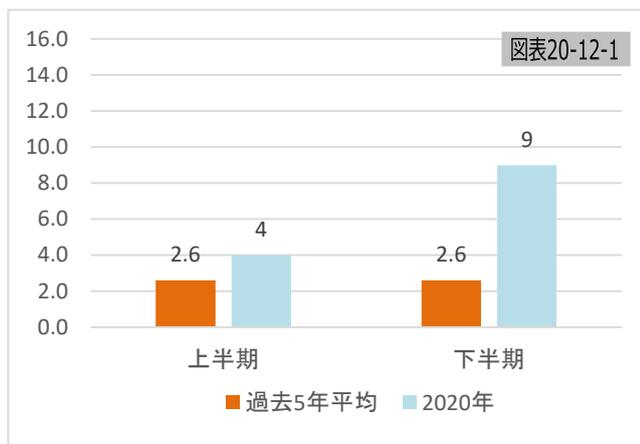
- 女性の自殺者の「被雇用者・勤め人」の中でも、過去5年平均と比較して増加数の多い職種について、2020年の上半期、下半期の増加の状況をみた。
- 女性の「専門・技術職」については、上半期より下半期が多く増加し、年間では10.8人の増となった(図表20-11-1,図表20-11-2)。
- 一方、男性は上半期は過去5年平均を下回り、下半期に大きく増加した。年間では9.0人の増であった。年間の増加数は女性が男性を上回った(図表20-11-2,図表20-11-3)。

図表20-12

販売従事者の期別自殺者数比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



販売従事者	女性		
	上半期	下半期	年間
過去5年平均	2.6	2.6	5.2
2020年	4	9	13
増減	1.4	6.4	7.8

販売従事者	参考(男性)		
	上半期	下半期	年間
過去5年平均	9.8	9.2	19.0
2020年	17	10	27
増減	7.2	0.8	8.0

注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

- 女性の「販売従事者」について、過去5年平均と比較すると、下半期の増加が目立ち、年間では7.8人の増となった(図表20-12-1,図表20-12-2)。
- 一方、男性は、上半期の方が増加が多く、年間では8.0人の増となっている。年間の増加数は男女ほぼ同様である(図表20-12-2,図表20-12-3)。

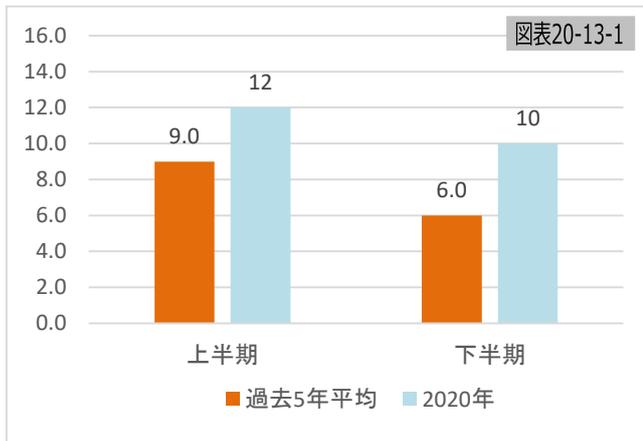
2 女性の自殺者の増加

図表20-13

その他の被雇用者・勤め人の期別自殺者数比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



	女性		
	上半期	下半期	年間
過去5年平均	9.0	6.0	15.0
2020年	12	10	22
増減	3.0	4.0	7.0

	参考(男性)		
	上半期	下半期	年間
過去5年平均	29.6	27.2	56.8
2020年	26	25	51
増減	-3.6	-2.2	-5.8

注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

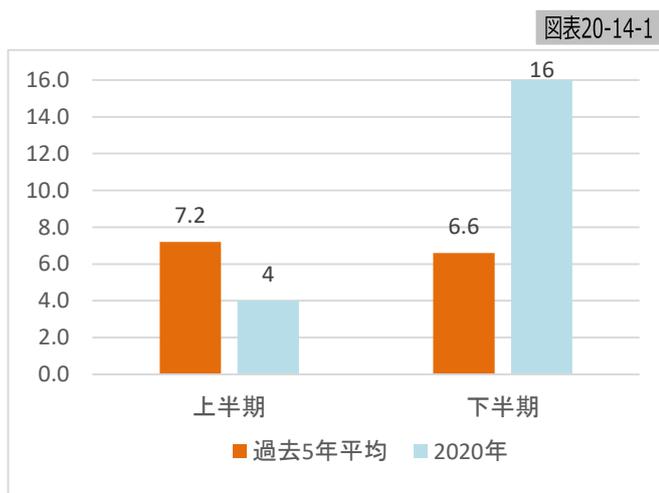
- 女性の「その他の被雇用者・勤め人」について、過去5年平均と比較すると、下半期の方が増加が多く、年間では7.0人の増となった(図表20-13-1,図表20-13-2)。
- 一方、男性は、上半期と下半期ともに減少し、年間で5.8人の減となった(図表20-13-3)。

図表20-14

事務職の期別自殺者数比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



事務職	女性		
	上半期	下半期	年間
過去5年平均	7.2	6.6	13.8
2020年	4	16	20
増減	-3.2	9.4	6.2

事務職	参考(男性)		
	上半期	下半期	年間
過去5年平均	11.2	10.6	21.8
2020年	7	16	23
増減	-4.2	5.4	1.2

注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

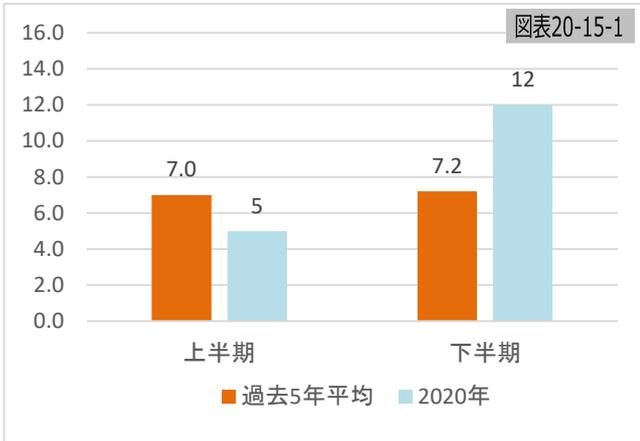
- 女性の「事務職」については、上半期は過去5年平均より下回っていたが、下半期は上回り、年間では6.2人の増となった(図表20-14-1,図表20-14-2)。
- 一方、男性も同様に上半期は過去5年平均を下回り、下半期は上回った。年間では1.2人の増となった。年間の増加数は女性が男性を上回った(図表20-14-2,図表20-14-3)。

図表20-15

サービス業従事者の期別自殺者数比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



サービス業従事者	女性		
	上半期	下半期	年間
過去5年平均	7.0	7.2	14.2
2020年	5	12	17
増減	-2.0	4.8	2.8

サービス業従事者	参考(男性)		
	上半期	下半期	年間
過去5年平均	15.4	13.6	29.0
2020年	15	15	30
増減	-0.4	1.4	1.0

注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

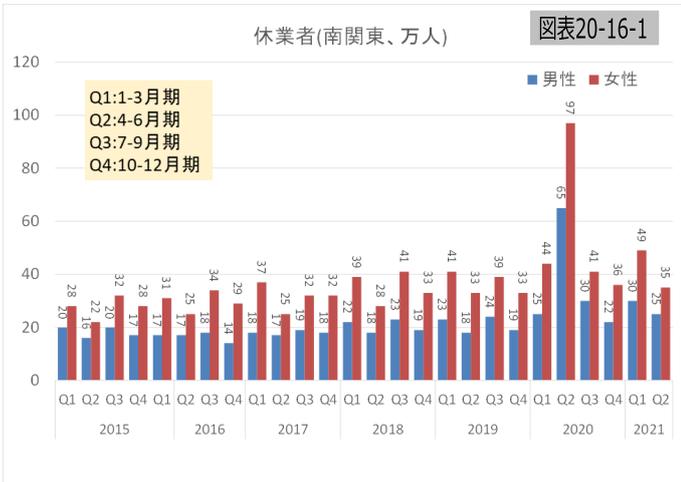
- 女性の「サービス業従事者」については、上半期は過去5年平均より下回ったが、下半期は上回り、年間では2.8人の増となった(図表20-15-1,図表20-15-2)。
- 一方、男性も同様に、上半期は過去5年平均を下回り、下半期は上回った。年間では1.0人の増となった。年間の増加数は、女性が男性を上回った(図表20-15-2,図表20-15-3)。

2 女性の自殺者の増加

図表20-16

参考 労働力の状況

(出典:総務省「労働力調査」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



- 労働力調査の南関東地区集計をみると、2020年4～6月期は、休業者数が急増し、南関東地区で男性65万人、女性97万人となった。また、全国集計では、男性168万人、女性250万人となった。いずれも女性が男性よりも多い。これは、2020年4月7日に発出された緊急事態宣言の発出による休業、休校、ステイホーム等の影響が大きく表れたと考えられる(図表20-16-1,図表20-16-2)。

- 同期の全国集計で休業者増加の職業別内訳をみると、女性のサービス職業従事者で54万人の増加、販売従事者が27万人の増加、専門的・技術的職業従事者が26万人の増加となっており、女性の被雇用者に対して影響が大きかったことがうかがえる(図表20-16-3)。

図表20-16-2

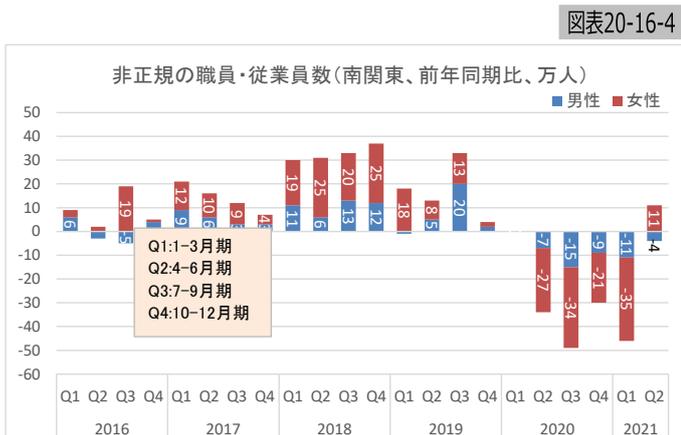
2020年4-6月期	休業者数(万人)			休業者増減(万人)		
	男	女	男女計	男	女	男女計
南関東	65	97	162	47	64	112
全国	168	250	418	106	155	261

- 休業者数の増加は2020年4～6月期のみの特徴であったが、同調査で女性の多い非正規の職員・従業員数の増減をみると、2020年4～6月期から4期連続して前年同期比が減少し、特に女性で20万人以上の減少が継続してみられている(図表20-16-4)。

- このように、就業環境の悪化は、男性よりも女性に大きく影響している。

図表20-16-3

(職業別 休業者数 全国)	休業者増減(万人)		
	男	女	男女計
合計	106	155	261
管理的職業従事者	1	0	1
専門的・技術的職業従事者	17	26	44
事務従事者	8	21	28
販売従事者	9	27	35
サービス職業従事者	27	54	82
保安職業従事者	3	0	3
農林漁業従事者	0	0	0
生産工程従事者	13	9	22
輸送・機械運転従事者	9	1	9
建設・採掘従事者	7	0	7
運搬・清掃・包装等従事者	7	12	19
分類不能の職業	5	4	9



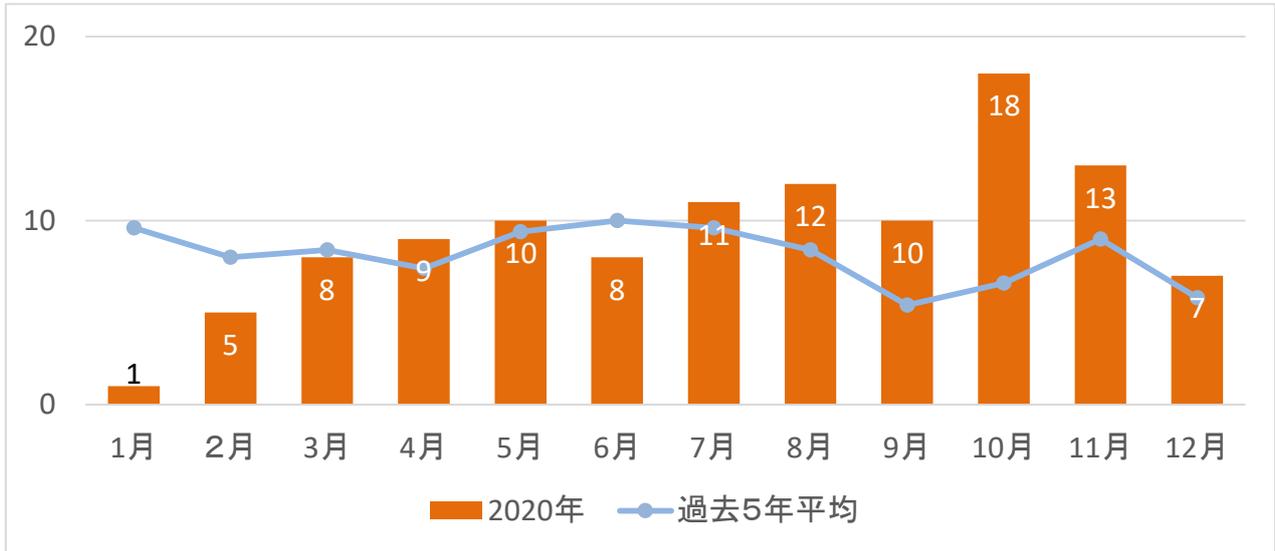
注)総務省労働力調査(基本集計)四半期平均の全国・地域別結果を利用している。地域表章には南関東を利用している。なお南関東は、埼玉、千葉、東京、神奈川の1都3県である。前年同期比は原数値での増減数である。

図表20-17

主婦の月別自殺者数比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
過去5年平均	9.6	8	8.4	7.4	9.4	10	9.6	8.4	5.4	6.6	9	5.8	97.6
2020年	1	5	8	9	10	8	11	12	10	18	13	7	112
増減数	-8.6	-3	-0.4	1.6	0.6	-2	1.4	3.6	4.6	11.4	4	1.2	14.4

- 次に、職業別の増加数が「被雇用者・勤め人」に次いで多い「主婦」について詳しくみた。
- 2020年の月別の「主婦」の自殺者数では、主に「7月」以降、過去5年平均を上回って推移し、特に「10月」が多く増加した。

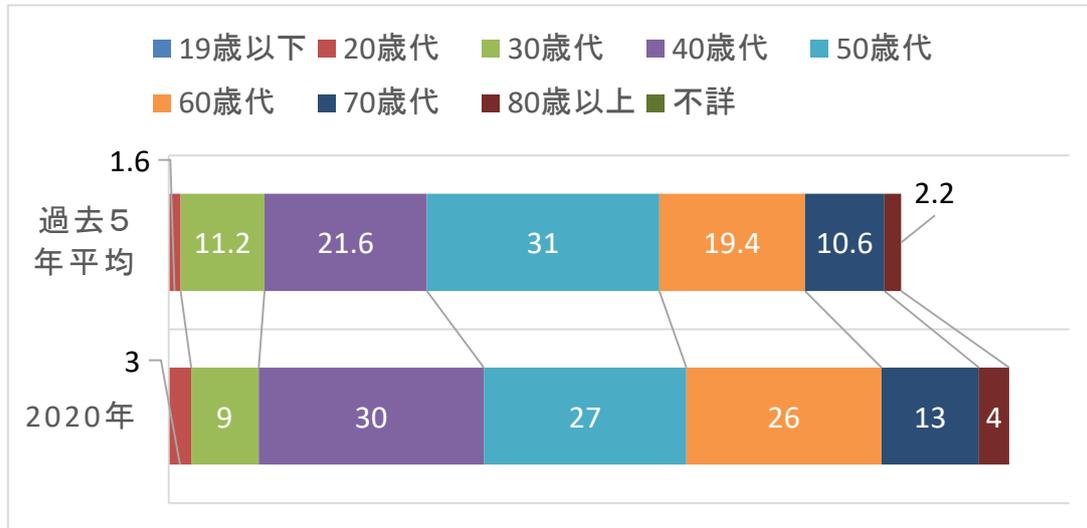
2 女性の自殺者の増加

図表20-18

主婦の年齢階級別自殺者数比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	合計
過去5年平均	0	1.6	11.2	21.6	31	19.4	10.6	2.2	97.6
2020年	0	3	9	30	27	26	13	4	112
増減数	0	1.4	-2.2	8.4	-4	6.6	2.4	1.8	14.4
増減率	-	88%	-20%	39%	-13%	34%	23%	82%	15%

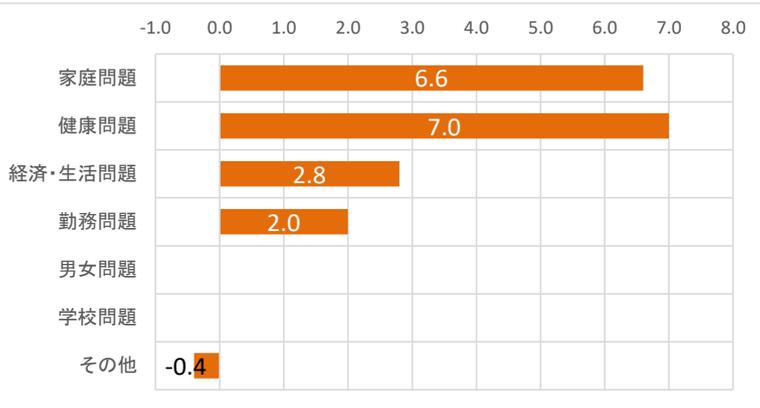
- 2020年の「主婦」の自殺者数を年齢階級別にみると、「40歳代」が30人と最も多く、次いで、「50歳代」が27人、「60歳代」が26人の順となった。
- また、過去5年平均と比較すると、増加数が最も多いのは、「40歳代」で8.4人の増であり、次いで「60歳代」で6.6人の増であった。

図表20-19

主婦の原因・動機別の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



	過去5年平均	2020年	増減
家庭問題	22.4	29	6.6
健康問題	54.0	61	7.0
経済・生活問題	2.2	5	2.8
勤務問題	0.0	2	2.0
男女問題	1.0	1	0.0
学校問題	0.0	0	0.0
その他	3.4	3	-0.4
不詳	39.2	39	-0.2

注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

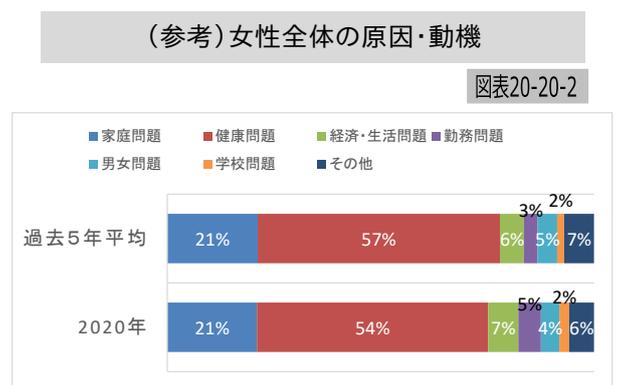
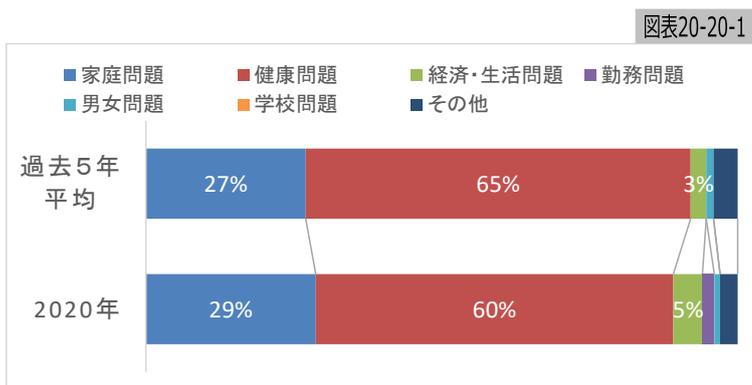
- 2020年の「主婦」の原因・動機別の状況について、過去5年平均と比較すると、「家庭問題」、「健康問題」、「経済・生活問題」、「勤務問題」で増加している。
- 「健康問題」が7.0人と最も多く増加し、次いで、「家庭問題」が6.6人の増加となっている。

図表20-20

主婦の原因・動機別構成比の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:%

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の「主婦」の原因・動機別の構成比は、「健康問題」が60%と最も多く、次いで「家庭問題」が29%となっている。これを女性全体の構成比と比較すると、「主婦」は、「健康問題」と「家庭問題」の比率が高くなっている(図表20-20-1,図表20-20-2)。
- また、過去5年平均と比較すると、「家庭問題」と「経済・生活問題」が増加し、「健康問題」が減少した(図表20-20-1)。

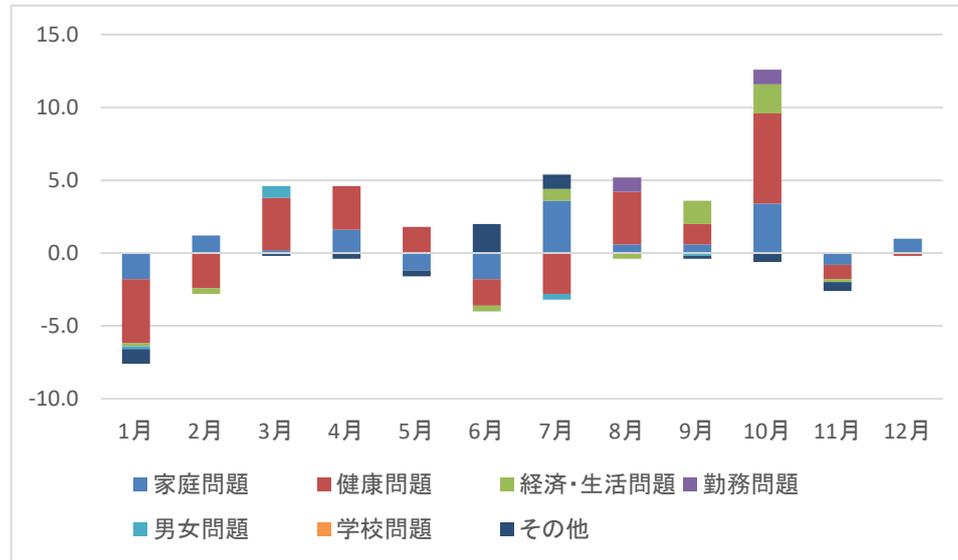
2 女性の自殺者の増加

図表20-21

主婦の原因・動機別の月別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



原因・動機	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
家庭問題	-1.8	1.2	0.2	1.6	-1.2	-1.8	3.6	0.6	0.6	3.4	-0.8	1.0	6.6
健康問題	-4.4	-2.4	3.6	3.0	1.8	-1.8	-2.8	3.6	1.4	6.2	-1.0	-0.2	7.0
経済・生活問題	-0.2	-0.4	0.0	0.0	0.0	-0.4	0.8	-0.4	1.6	2.0	-0.2	0.0	2.8
勤務問題	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	2.0
男女問題	-0.2	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	-0.4	0.0	-0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
学校問題	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	-1.0	0.0	-0.2	-0.4	-0.4	2.0	1.0	0.0	-0.2	-0.6	-0.6	0.0	-0.4

注)自殺月で集計している。自殺月不詳、原因・動機不詳は除外している。

原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の「主婦」の自殺者数を、月別、原因・動機別で過去5年平均と比較すると、女性の自殺者数が大きく増加に転じた「7月」は、「家庭問題」の増加が目立っている。また、女性の自殺者が最も増加した「10月」は「健康問題」と「家庭問題」の増加が目立った。
- 年間の合計で見ると過去5年平均と比べ増加が多かった上位3位は、①「健康問題」②「家庭問題」③「経済・生活問題」であった。

図表20-22

原因・動機（小分類）別主婦自殺者数の比較（2020年と過去5年平均との比較）

（出典：警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成）

区分:主婦 女性				GA06R4032	
2020年の構成比の上位を表示		2020	2019	過去5年	大分類
順位	原因動機小分類	n=101	n=57	n=415	
1	病気の悩み・影響（うつ病）	27.7%	26.3%	34.2%	健康
2	病気の悩み（身体の病気）	15.8%	15.8%	15.4%	健康
3	夫婦関係の不和	8.9%	10.5%	6.7%	家庭
3	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	8.9%	1.8%	5.5%	健康
5	病気の悩み・影響（統合失調症）	7.9%	7.0%	7.5%	健康
6	家族の将来悲観	5.0%	0.0%	2.9%	家庭
7	家庭問題その他	4.0%	1.8%	2.4%	家庭
8	その他家族関係の不和	3.0%	0.0%	2.4%	家庭
8	家族の死亡	3.0%	1.8%	1.9%	家庭
8	子育ての悩み	3.0%	7.0%	5.8%	家庭
8	経済生活問題その他	3.0%	0.0%	1.0%	経済生活
12	親子関係の不和	2.0%	5.3%	2.4%	家庭
12	生活苦	2.0%	0.0%	1.0%	経済生活
12	その他問題その他	2.0%	8.8%	2.9%	その他

注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは一致しない。

- 主婦について、自殺の原因・動機（小分類）をみると、2020年は、「病気の悩み・影響（うつ病）」が全体の27.7%を占めて最も高く、次いで、「病気の悩み（身体の病気）」、「夫婦関係の不和」・「病気の悩み・影響（その他の精神疾患）」の順となっている。
- このうち、「病気の悩み（身体の病気）」、「夫婦関係の不和」、「病気の悩み・影響（その他の精神疾患）」は、過去5年平均の比率を上回った。

2 女性の自殺者の増加

女性の自殺者数の増加まとめ

- 2020年の女性の自殺者数を職業別で見ると、「被雇用者・勤め人」が過去5年平均と比較して最も多く増加し、次いで、「主婦」が増加した。そこで、「女性の被雇用者・勤め人」と「主婦」の自殺者について、詳しくみた。
- 「女性の被雇用者・勤め人」の自殺者については、次のことがわかった。
 - ・月別自殺者数は、主に「7月」以降、継続して増加傾向で「12月」が最も多かった。この間の原因・動機では、「家庭問題」と「勤務問題」の増加が目立った。
 - ・年齢階級別では、「30歳代」が最も多く、次いで「20歳代」の順であった。また、過去5年平均と比較して、増加数が最も多く増加したのは、「20歳代」、次いで「30歳代」、「50歳代」の順であった。
 - ・原因・動機別を構成比で見ると、「健康問題」が最も多く、次いで、「家庭問題」、「勤務問題」の順に多かった。女性全体の自殺者の原因・動機と構成比と比較すると、「健康問題」の割合が低く、「勤務問題」の割合が高かった。また、過去5年平均と比較すると、最も多く増加したのは「家庭問題」と「勤務問題」であった。
 - ・さらに職種の内訳を過去5年平均と比較すると、増加数は、「専門・技術職」が最も多かった。
 - ・また、年齢階級別・職業別で過去5年平均と比較すると、「若年層」では、「専門・技術職」が最も多く増加し、「中高年層」では、「販売従事者」が最も増加した。
- 次に、「主婦」の自殺者については、次のことがわかった。
 - ・月別自殺者数は、主に「7月」以降、過去5年平均を上回って推移し、特に「10月」が最も増加した。「7月」の原因・動機では「家庭問題」が、「10月」は「健康問題」と「家庭問題」の増加が目立った。
 - ・年齢階級別をみると、「40歳代」が最も多く、次いで、「50歳代」、「60歳代」の順となった。過去5年平均と比較して、増加数が最も増加したのは、「40歳代」、次いで「60歳代」の順であった。
 - ・原因・動機別を構成比で見ると、「健康問題」が最も多く、次いで「家庭問題」の順であった。これを女性全体の自殺者の原因・動機と比較すると、「主婦」は「健康問題」と「家庭問題」の比率が高かった。また、過去5年平均と構成比で比較すると、最も増加したのは「家庭問題」と「経済・生活問題」であった。